

イ、石灰部耐負單價値上に端を發して内紛し、會社と警察の斡旋で一時を糊塗してゐた庚午會は昨年の市職戰に於て分裂し脱退派は共立購買會を結成してゐたが、去る一月二十三日健康保險組合評議員選舉に於て庚午會より協定を提唱して來たので、將來對會社關係の諸問題並に従業員に關する事項に對し協力委員會の如き接應機關の設置を條件にして選舉協定が成立した。庚午會は組合破壞のため會社の御用組合として結成されたものであるが今日結成當時のイデオロギ^{イデオロギ}ーを固持して組合との協同に反對してゐるものも二、三あるが庚午會が御用組合としての意義は解滅してゐるので、懸々この評議員會（本夜開催中）で組合との協力委員會設置か否かが決定される筈で

あるが既に個人的には庚午會より組合へ加入する者が續いてゐる。庚午會の一般的意向は組合の出店にして貰いたいと言つてゐる程である。

ロ、事業部として經營してゐる白木崎購買組合も一時甚しい苦難時代に陥つてゐたが組合員の協力に依り月四十圓餘の賣上げに達し内容充實し物品倉庫の建築もなり産業組合法公認申請の書類も揃つたので三、四日内に市役所を通じて認可手續を執ることにしてゐる。

ハ、金融部も順調に發展し利用者も増加したが何分僅かの金額を一々回収するに莫大な勞力を要して之が簡易化が要求されてゐたが、會社と交渉の結果、購買金と共に金融部の回収金も給料から控除することが